令和6年度
板橋区登録手話通訳者認定試験

二次試験　聞き取り表現問題

問題１　　「　言葉がくれた幸せ　」　　（１分４１秒）

高校の入試日、私は帰りの電車に乗り座ると、試験が終わってホッとしたのかすぐに寝てしまいました。ふと視線を感じて頭を上げると、私の前に、優しく微笑むように私を見つめるおばあさんが立っていました。私は慌てて、「どうぞ。」と立ち上がろうとしましたが、おばあさんは、私の肩を押して、「いいのよ、そのまま座っていて。頑張ってお勉強してきたんでしょう。私は今まで遊んできたんだから。」と言われました。すると、私の隣に座っていた人たちが、席をつめてくれて、一人分のスペースができ、おばあさんは頭を下げると、私の隣に腰かけました。

おばあさんの優しい人柄に触れ、私は今日が入試だったことや、電車に乗りなれていないことを話しました。おばあさんは「合格できるようにお祈りしているわね。」と言って、電車を降りて行きました。私はおばあさんが見えなくなるまで手を振りました。

問題２　　「　こたつはもう古い？　」　　（１分３９秒）

日本の冬の風物詩といえる「こたつ」が消えようとしています。「こたつ」は平成２年の生産台数約178万台から毎年減少し、平成15年には約24万台となり、その次の年からは数値の公表もされなくなってしまいました。

日本の「こたつ離れ」はどうして進んでしまったのでしょうか。それは、生活様式の変化、特にフローリングとエアコンの普及が大きいです。また高齢者にとっては掃除が大変という声もありました。こたつ布団を上げて掃除をしたり、何かをこぼしたときは布団カバーの洗濯も必要となります。若い女性からは、こたつは臭いがこもり、こたつ布団をめくると父親の足のにおいが気になるという声もありました。

冬はこたつでテレビを見ながら鍋をつつき、みかんを食べながら一家団欒というのは昭和時代の思い出となってしまったようです。